

長崎女子短期大学におけるティーチングアシスタント (TA) アンケート調査結果の分析

桑 原 真 美

The questionnaire research analysis of Teaching Assistant (TA)
in Nagasaki Woman's Junior College

Mami KUWAHARA

1. はじめに

ティーチングアシスタント (以下 TA) とは、優秀な大学院学生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対するチュータリング (助言) や実験、演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と大学院学生のトレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当ての支給により、大学院学生の処遇の改善の一助とすることを目的とした制度¹⁾である。

令和2年度の調査では TA・RA (リサーチアシスタント)・SA (スチューデントアシスタント)・メンターの活用を実施している私立短期大学は19.8% (56校)²⁾であり、全国的にみて教育サポートを職務とする学生スタッフを設けている短期大学は少ない。本学では令和3年度より教育サポートスタッフ制度を創設し、その中で実験・実習科目の補助やその他授業に係る補助および支援をするものとして TA を設けた。本学の TA は大学院生ではなく、学部学科の2年生から選出し、主に1年生の実験・実習科目の補助を行う。初年度である令和3年度は筆者が担当する1年前期開講科目である食品学基礎実験および1年後期開講科目である食品衛生学実験の TA として生活創造学科栄養士コースの2年生より2名を任命した。

今年度始まったばかりの制度であるが、TA 自身が TA の職務についてどう考えどう評価するのか、TA の補助がある授業を受講した学生が

TA に対してどのように感じているのかを調査することは、今後も TA 制度を存続し、より効果的な TA 制度と TA への支援を確立していくための貴重な資料となりうる。そこで、本年度の TA 2名と TA が補助を担当した食品学基礎実験および食品衛生学実験を受講した栄養士コース1年生を対象に TA に関するアンケート調査を実施した。TA には業務内容、TA としての自己評価および TA の業務が自分自身にもたらした影響等について調査した。受講学生については TA が2名であることに配慮し TA への直接的な評価はできるだけ避け、TA 制度全般に関するアンケートを実施した。

2. 方 法

2.1 調査方法

調査方法は質問紙による無記名自記式での調査とし、集合法による配布および回収を行った。調査期間は令和3年12月とした。

2.2 調査対象者

調査対象者は令和3年度食品学基礎実験および食品衛生学実験の TA 2名、食品学基礎実験および食品衛生学実験の受講生 (栄養士コース1年生) 19名とした。

2.3 調査内容

質問項目は北海道大学で実施された TA に関

するアンケート調査³⁾⁴⁾を参考に作成した。

2.3.1 TA へのアンケート調査

TA の業務内容に関する質問として、「あなたは TA 担当授業科目の予習を行いましたか」について「毎回した」「たまにした」「ほぼしなかった」「全くしなかった」の選択肢から尋ねた。また、授業中の受講学生からの質問の有無とその内容、授業時間外での受講学生からの担当科目についての質問の有無とその内容、授業時間外での受講学生からの担当科目以外についての質問の有無とその内容についても尋ねた。なお、質問の内容は自由記述とした。

TA としての自己評価に関する質問として、「あなたは担当科目の TA として受講学生と上手く接することができましたか」および「あなたは TA としての仕事が上手くできましたか」として「大変上手くできた」「やや上手くできた」「あまり上手くできなかった」「上手くできなかった」の選択肢から尋ねた。また「担当科目の TA の仕事は難しかったですか」について「大変難しかった」「やや難しかった」「あまり難しくなかった」「全く難しくなかった」の選択肢から尋ねた。

TA の業務が自分自身にもたらした影響に関する質問として「担当科目の TA をやってみて自分のメリットになったと思いますか」について「とてもそう思う」「ある程度そう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の選択肢から尋ねた。「担当科目の TA をして楽しかったですか」について「大変楽しかった」「やや楽しかった」「あまり楽しくなかった」「全く楽しくなかった」の選択肢から尋ねた。さらに「担当科目の TA の仕事にやりがいを感じましたか」について「大いに感じた」「やや感じた」「あまり感じなかった」「全く感じなかった」の選択肢から尋ねた。

自己評価および自身にもたらした影響に関する質問についてはその選択肢を選んだ理由を自由記述で尋ねた。

2.3.2 受講学生へのアンケート調査

受講学生が TA 制度を活用したかについて調べるため「あなた自身、TA の援助を受けたと思いますか」について「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の選択肢から尋ねた。また、TA に対してどのような援助を受けたか知るため「授業中、TA にどんな援助を受けましたか」について「実験方法についての援助・質問」「実験器具の使い方の援助・質問」「計算についての援助・質問」「グラフの作成についての援助・質問」「レポート作成についての援助・質問」「その他」の中から複数回答で尋ねた。また、授業時間外での TA が担当した科目についての援助および質問の有無とその内容、授業時間外での TA 担当科目以外に関する事についての援助および質問の有無とその内容について尋ねた。

TA 制度について学生がどう感じているのか調査するため、「TA は質問に対して丁寧に対応していたと思いますか」「食品学基礎実験、食品衛生学実験に TA がいてよかったと思いますか」について「そう思う」「ある程度そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の選択肢から尋ねた。併せてそう思う理由も尋ねた。また「TA は楽しく仕事をしているように見えましたか」「あなたは 2 年生になったら TA の仕事をしてみたいと思いますか」について「そう思う」「ある程度そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の選択肢から尋ねた。

3. 結 果

3.1 TA へのアンケート調査結果

「担当科目の予習を行ったか」について「毎回した」が 50% (n = 1)、「たまにした」が 50% (n = 1) であった (表 1)。「授業中の受講生からの質問」については質問を「受けた」と答えた TA が 100% (n = 2) であり、質問の内容は「計算方法」、「実験器具の使い方」、「実験手順」、「グラフの作成」、「試験の内容」であった (表 2)。「授業時間外での受講生からの担当科目に関する質問」については「受けた」と答えた TA が 50% (n =

表1 TA 担当科目の予習を行ったか (N= 2)

	n	%
毎回した	1	50
たまにした	1	50
ほぼしなかった	0	0
全くしなかった	0	0

表2 授業中の受講生からの質問の受付有無とその内容 (N= 2)

	n	%	質問内容(自由記述)
受けた	2	100	計算方法 実験器具の使い方 実験手順 グラフの作成 試験の内容
受けていない	0	0	

表3 授業時間外の受講生からの担当科目に関する質問受付の有無とその内容 (N= 2)

	n	%	質問内容(自由記述)
受けた	1	50	レポートの書き方
受けていない	1	50	

表4 授業時間外の受講生からの担当科目以外に関する質問受付の有無とその内容 (N= 2)

	n	%	質問内容(自由記述)
受けた	1	50	試験勉強の方法 課題について
受けていない	1	50	

表5 TA として受講生と上手く接することができたか (N= 2)

	n	%	理由 (自由記述)
大変上手くできた	0	0	
やや上手くできた	2	100	最初は慣れないことでうまく説明できなかつたりしたが、1年通して行うことでわかりやすく理解しやすいよう教えることができたと思うから。 最初の頃は緊張でうまくコミュニケーションを取ることが難しかったが、今まではしっかりコミュニケーションがとれて上手く接することができていると思ったから。
あまり上手くできなかった	0	0	
上手くできなかった	0	0	

表6 TA としての仕事が上手くできたか (N= 2)

	n	%	理由 (自由記述)
大変上手くできた	0	0	
やや上手くできた	0	0	
あまり上手くできなかった	2	100	聞かれた質問に対して上手く説明できなかつたり、自分の勉強不足な部分を大きく感じた。それとをもって積極的に動ければ良かったなと感じた。 不慣れなことばかりでまわりを見て行動することがあまりできておらず、先生方の足を引っ張っていたと思ったから。
上手くできなかった	0	0	

表7 TAの仕事は難しかったか (N=2)

	n	%	理由 (自由記述)
大変難しかった	1	50	1年生に理解してもらうためにわかりやすく教えることがとても難しかったから。
やや難しかった	1	50	自分が教えたりサポートする立場になる経験が今まであまりなかった為、相手にわかりやすく伝えたり、問題の答えではなく手順を説明することが難しかった。
あまり難しくなかった	0	0	
全く難しくなかった	0	0	

表8 TAの仕事は楽しかったか (N=2)

	n	%	理由 (自由記述)
大変楽しかった	2	100	普段の生活では下級生と関わる機会が無い為、下級生ともコミュニケーションを取ることができたことと1年次の復習ができ学びを深められたから。 理解してもらえたときにありがとうございましたなど笑顔で言ってもらえたりして嬉しかったし1年生との関わりも増えたから。
やや難しかった	0	0	
あまり難しくなかった	0	0	
全く難しくなかった	0	0	

表9 TAの仕事にやりがいを感じたか (N=2)

	n	%	理由 (自由記述)
大いに感じた	2	100	前期から今まで、1年生にわからないところを教えて理解してくれた時にとてもやりがいを感じたから。 TAを通して、1年次の復習やコミュニケーション力、教えることの難しさ、自分の知識不足などたくさんのがわかり、勉強になることばかりだった。そして色々な面で自分自身の成長につながったと感ずることができた。
やや感じた	0	0	
あまり感じなかった	0	0	
まったく感じなかった	0	0	

表10 TAの仕事は自分にとってメリットになったと思うか (N=2)

	n	%	理由 (自由記述)
とてもそう思う	2	100	TAを担当することで1年生の時の復習も行うことができ、教えることによって自分自身もより学びを深めることができたから。 今までは人との関わりが苦手だったがTAをすることでコミュニケーション能力や指導力を付けることができ、前の自分を変えることができたから。
ある程度そう思う	0	0	
あまりそう思わない	0	0	
全くそう思わない	0	0	

表11 TAの援助を受けたと思うか (N=19)

	n	%
そう思う	16	84.2
ややそう思う	3	15.8
あまりそう思わない	0	0.0
そう思わない	0	0.0

表12 TAから受けた援助内容 (複数回答 N=19)

	n	%
実験方法	18	94.7
計算	16	84.2
実験器具の使用法	12	63.2
グラフの作成	10	52.6
レポート作成	4	21.1
その他	0	0

表13 授業時間外にTAからTA担当科目についての援助を受けたか (N=19)

	n	%	援助内容 (自由記述)
はい	2	10.5	試験についての質問 レポート作成についての質問
いいえ	17	89.5	

表14 授業時間外にTAからTA担当科目以外についての援助を受けたか (N=19)

	n	%	援助内容 (自由記述)
はい	4	21.1	試験についての質問
いいえ	15	78.9	

1)、「受けていない」と答えたTAが50% (n=1)であり、受けた質問は「レポートの書き方」であった(表3)。また、「授業時間外の受講生からの担当科目以外に関する質問」については「受けた」と答えたTAが50% (n=1)、「受けていない」と答えたTAが50% (n=1)であり、受けた質問は「試験勉強の方法」、「課題について」であった(表4)。「TAとして受講学生と上手く接することができたか」については「やや上手くできた」と答えたTAが100% (n=2)であり、その理由からTAの業務を始めた当初は難しかったようだが徐々に上手くコミュニケーションが取れるようになったことが伺えた(表5)。「TAとしての仕事が上手くできたか」については「あまり上手くできなかった」と答えたTAが100% (n=2)であり、その理由として「質問に対する説明が上手くできず勉強不足を感じた」「もっと積極的に動けばよかった」「まわりを見て行動できなかった」などが挙げられた(表6)。「TAの仕事は難しかったか」については「大変難しかった」と答えたTAが50% (n=1)、「難しかった」と答えたTAが50% (n=1)であった。2名とも難しかったと答えており、その理由から1年生に対して質問に対する回答をわかりやすく説明をすることが困難であったことが原因であることが読み取れる(表7)。

「TAの仕事は楽しかったか」については「大

変楽しかった」と答えたTAが100% (n=2)であり、その理由として「1年生とのとの関わりが増えた」、「自分自身の学びを深められた」、「達成感を得られた」などが挙げられた(表8)。「TAの仕事にやりがいを感じたか」については「大いに感じた」と答えたTAが100% (n=2)であり、その理由として「1年生が理解してくれた時にやりがいを感じた」「勉強になることばかりだった」「自分自身の成長につながった」などが挙げられた(表9)。「TAの仕事は自分にとってメリットになったと思うか」については「とてもそう思う」と答えたTAが100% (n=2)であり、その理由として「1年生に教えることにより自分自身の学びも深めることができた」、「コミュニケーション能力が身についた」、「指導力が身についた」が挙げられた(表10)。

3.2 受講生へのアンケート調査結果

「TAの援助を受けたと思うか」については「そう思う」と答えた者が84.2% (n=16)、「ややそう思う」が15.8% (n=3)、「あまりそう思わない」「そう思わない」が共に0% (n=0)であった(表11)。TAから受けた援助内容については「実験方法についての援助・質問」と答えた者が94.7% (n=18)、「計算についての援助・質問」が84.2% (n=16)、「実験器具の使い方の援助・質問」が63.2% (n=12)、「グラフの作成につい

表15 TAは丁寧に対応していたと思うか (N=19)

	n	%
そう思う	18	94.7
ややそう思う	1	5.3
あまりそう思わない	0	0.0
そう思わない	0	0.0

表17 実験科目にTAがいてよかったと思うか (N=19)

	n	%
そう思う	18	94.7
ややそう思う	1	5.3
あまりそう思わない	0	0.0
そう思わない	0	0.0

表16 TAが丁寧に対応していたと思った理由 (自由記述 N=19)

	n
わかりやすく教えてくれた	6
理解できるまで教えてくれた	6
優しく教えてくれた	4
答えだけでなく理由や答えに至るまでの過程も教えてくれて理解できた	3
丁寧に教えてくれた	2
2年生の授業と時間が重なっていても終わり次第実験に参加してくれた	1

表18 実験科目にTAがいてよかったと思った理由 (自由記述 N=19)

	n
先生が手を離せない時に質問できる	4
気軽に質問できたから	3
わからないことを教えてくれる。アドバイスをくれる。	3
近くにいてもらえるのですぐ質問ができる	2
片付けを手伝ってもらえて助かった	1
実験がスムーズに進んでいたから	1
実験や計算で行き詰った時に教えてもらえる	1
質問がなくても気にかけてくれる	1
質問できたから	1
先生より聞きやすい	1
先生を呼ばずに器具の使い方や方法を聞ける	1
年齢が近いので聞きたいことが聞きやすい	1
理解できるまで教えてくれた	1
わからないことがあるときに聞ける方が増えるから	1

表19 TAは楽しく仕事をしているように見えたか (N=19)

	n	%
そう思う	11	57.9
ややそう思う	6	31.6
あまりそう思わない	2	10.5
そう思わない	0	0.0

表20 TAの仕事をしてみたいと思うか (N=19)

	n	%
そう思う	0	0.0
ややそう思う	5	26.3
あまりそう思わない	9	47.4
そう思わない	5	26.3

での援助・質問」が52.6% (n=12)、「レポートの作成についての援助・質問」が21.1% (n=4)であった(表12)。「授業時間外にTAからTAの担当する科目についての援助を受けたか」については「はい」と答えた者が10.5% (n=2)、「いいえ」と答えた者が89.5% (n=17)であった。援助の内容として「試験についての質問」「レポート作成についての質問」が挙げられた(表13)。「授業時間外にTAからTAの担当する科目以外についての援助を受けたか」については「はい」と答えた者が21.1% (n=4)、「いいえ」と答えた

者が78.9%であった。援助の内容として「試験についての質問」が挙げられた(表14)。

「TAは丁寧に対応していたと思うか」については「そう思う」と答えた者が94.7% (n=18)、「ややそう思う」が5.3% (n=1)であった(表15)。その理由として「わかりやすく教えてくれた」「理解できるまで教えてくれた」等が挙げられた(表16)。「食品学基礎実験、食品衛生学実験にTAがいてよかったと思うか」については「そう思う」と答えた者が94.7% (n=18)、「ややそう思う」が5.3% (n=1)であった(表17)。そ

の理由として「先生が手を離せない時に質問できる」「気軽に質問できたから」「わからないことを教えてくれる、アドバイスをくれる」等が挙げられた (表18)。

「TAは楽しく仕事をしているように見えたか」については「そう思う」と答えた者が57.9% (n=11)、「ある程度そう思う」が31.6% (n=6)「あまりそう思わない」が10.5% (n=2)であった。「TAの仕事をしてみたいと思うか」については「ある程度そう思う」と答えた者が26.3% (n=5)「あまりそう思わない」が47.4% (n=9)、「そう思わない」が26.3% (n=5)であった。

4. 考 察

授業中に TA へ寄せさせた質問の内容に関しては、TA および受講学生へのアンケート双方からわかるように、「実験方法」や「計算」が特に多く、その他授業で行っていることすべてに及んでいることがわかった。食品学基礎実験においては、短大に入学して初めての実験科目ということもあり、実験操作の基本から指導を行う。教員が学生から実験手順や計算、実験器具の使用方法について個別の質問を受けると対応に時間がかかることが多い。受講生のアンケートにおいて「TA がいてよかったと思う理由」にもあるように、教員が手を離せない時や別の学生の対応をしている場合、TA がフォローをしてくれることは受講生に対して大きなメリットとなる。また、化学実験は危険も伴うため、指導者が多いことは事故防止にも繋がる。「TAとして受講学生とうまく接することが出来たか」については2名とも「やや上手くできた」と回答しており、TA を始めた当初は上手くいかないことが多かったようであるが、TA として1年間経過した今では自ら積極的に受講生とコミュニケーションをとっているようである。友人とは異なる相手とのコミュニケーション能力はこれから社会に出る学生にとって重要であり、TA 業務によりその能力を養うことが出来たのではないだろうか。また、授業時間外に TA へ他の科目の質問をした受講生もおり、学年を越

えた学生間の繋がりも少なからず生まれたことが考えられる。「TAとしての仕事が上手くできたか」に関しては2名とも「あまり上手くできなかった」と回答していた。理由として「聞かれた質問に対して上手く説明できなかった」「勉強不足を感じた」「不慣れなことも多く周りを見て行動できなかった」「もっと積極的に動ければ良かった」が挙げられたが、これまで実験科目を2科目しか受講していない2年生である TA は経験も浅く不慣れという部分では致し方ないのではないだろうか。しかしながら、受講生のアンケートにおいて「TAは丁寧に対応していたと思うか」「実験科目にTAがいてよかったと思うか」の質問に「そう思う」と答えた者が94.7%、「ややそう思う」と答えた者が5.3%であり、TAの自己評価とは真逆の結果である。担当教員の筆者から見ても、TAが受けた質問に一生懸命答えようという姿や真面目に取り組んでいる姿が印象的であり、その姿勢が結果となって表れたのではないかと考える。

TA業務のやりがいやメリットに関する質問では、自分自身の学びが深まる、コミュニケーション能力の向上、1年生との繋がりができる、達成感が得られるなど肯定的な意見が多く、TAの2名は業務を通して得られたものが多かったようである。TA制度は主として受講生に対する細やかな教育の提供のために導入されたものであるが、TA自身にとってもメリットが大きかったことがわかる。

受講生のアンケートにおいて、「TAは楽しく仕事をしているように見えたか」の質問に約9割の者が「そう思う」「ややそう思う」と答えたが、「TAの仕事をしてみたいと思うか」の質問に対しては「ややそう思う」が26.3%、その他の学生は「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答していた。次年度のTAを募集する上で、TAの業務に興味のある学生を増やすことは重要であるが、現時点で2割台にとどまっている。今回のアンケート調査から明らかになった、TA業務のやりがいやメリットを先輩の声として公表することも学生の積極性を促す上で効果的だと考える。

TA 制度を継続するには TA を採用したい科目の開講時間に 2 年生の授業を行わず時間を空けておく必要がある。そのため授業スケジュールに余裕のない短期大学では、TA を採用する科目を多く設けることは難しい。しかしながら TA を採用することで 1 年生への細やかな教育の提供ができること、今回のアンケートにて TA 制度に対する受講生の満足度が高かったこと、TA 自身のメリットや成長を考えると、今後も継続して行っていきたい取り組みである。また、今後は時間の許す限り他科目でも TA を採用し、更なる教育の充実を図っていきたい。

参考文献

- 1) 文部科学省. ティーチング・アシスタント (TA) について.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/07011713/001/002.htm (参照 2022-1-7)
- 2) 日本私立学校振興・共済事業団. 私立大学・短期大学教育の現状. p.17
- 3) 山田邦雅, 細川敏幸, 西森敏之, 安藤厚. 北海道大学における TA を評価したアンケート調査の分析. 高等教育ジャーナル-高等教育と生涯学習-17. 2010
- 4) 北海道大学高等教育機能開発総合センターコアカリキュラム調査検討グループ. 北海道大学全学教育 TA アンケート調査報告書. 2007-3